

柏崎バーボール協会の活動紹介



柏崎バーボール協会

理事長 中山 徹

当協会は小学生バーボール連盟(小バ連)、中体連、ヤングバレー(ヤング)、高体連、一般社会人(一般)、家庭婦人連盟(家婦連)、ソフトバーボール連盟(ソフバ連)と7つの組織がそれぞれ意欲的に活動をしています。

小バ連は、7チーム計69人が登録しています。大会の他に毎年一流指導者を招聘し、底辺の拡大及び強化並びに指導者の養成に力を注いでいます。

中体連は、柏崎地区の13校中11校で女子部が活動をしています。残念ながら男子部は37年前に第一中学校を最後に、当地区では部活動としては登録されていません。

ヤングは、中学3年の7月から12月まで活動を行っています。28年度は、市内各中学校から23名が週1回の練習に参加をしていました。ボールやネットを高校生ルールに合わせることで、進学後もスムーズにバーボールが出来るよう取り組んでいます。

高体連は、柏崎高校、常盤高校、総合高校、翔洋中等教育学校に女子部が、柏崎高校に男子部が活動しています。女子は、近年上越地区でベスト4以上の成績を収め、県大会でもベスト8に匹敵する実力があり、これからも期待できます。男子は、プレー経験のない生徒が多い中、毎年上越地区で上位を狙えるチーム力が備わってきています。

一般は、男女各2チームの登録しかありません。当協会主催の大会や近隣の協会主催の大会に出場して、腕試しをしています。

家婦連は、6チーム計78名が登録しています。主催大会は、年間4大会でその他に県予選会があります。年齢別の大会もあり、同年代のチーム同士が時に激しく、時に和気あいあいとプレーを楽しんでいます。

ソフバ連は、18チーム計297名が登録しています。ファミリーの部の全国大会を3回当市で開催し、全国的にもソフバ熱が高い地域だと思います。

当協会は、選手だけでなく役員も減少傾向にあり、今後は各連盟等がお互いに協力し合える体制作りを目指しています。

加盟団体のPRコーナー

選手強化部の活動

優秀体育人表彰について

選手強化部長

品田 賢一郎

オリンピックイヤーを終えた平成29年も柏崎のスポーツ人は大活躍であったと思います。29年の優秀体育人表彰は、個人90人・団体37チーム、総人数351人となります。前年に比べ、優秀競技者賞と競技者賞は微増し、奨励賞は若干減りました。選手の努力は勿論のこと、各競技団体と指導者のご苦労に敬意を表します。

選手強化部会及び理事会で慎重審査の結果であります。2~3の団体が受賞から外れましたが、規定遵守が公正の基でありますので、関係者には理解をお願いしたいと思います。一方、特筆すべきは女性の活躍です。例えば、高校女子駅伝の二年連続全国大会出場、競泳の全中6位、水球の日本選手権大会入賞、居合道の全日本大会六段の部第2位、ライフセーフィングの全日本大会入賞などです。今後も活躍されますよう願っています。

柏崎は冬のスポーツが地域性もあり苦手なようですが、現存の施設を有効活用していただき、柏崎のスポーツ界の活躍がオールシーズンに亘って、新聞等の紙面をにぎわせていただきたいと願っています。

活躍した選手を表彰して競技力向上の一助になるよう努めておりますが、柏崎市で育った優秀な選手が高校・大学への進学の際に離柏してしまったり、進学した学校に部活種目がないなどの難しい現実もあります。皆さんの英知と支援を頼んで、各事業を前進させていきたいと思っています。

より高く・より強く・より楽しく
一般財団法人 柏崎市体育協会

KASHIWAZAKI CITY SPORTS ASSOCIATION

〒945-0061 新潟県柏崎市栄町18-11柏崎市武道館内

柏崎市体育協会 広報部

TEL・FAX 0257(22)5597

e-mail info@kashiwazaki-sports.jp

URL http://www.kashiwazaki-sports.jp

柏崎セーリングクラブの紹介



柏崎セーリングクラブ

会長 富澤 仁

柏崎セーリングクラブの紹介をさせていただきます。

柏崎セーリングクラブは今年発足いたしました。

旧柏崎サーフボード連盟から名称と会長の交代で柏崎市体育協会の加盟団体として活動しています。日常の活動は、セーリング愛好者が柏崎中央海岸に集まり、ヨット、ウイングサーフィン、カイトセーリング等自由に活動して生涯スポーツとして楽しんでいる人々、大会出場を目指し技術の向上のため練習している人もいます。今年度の活動としまして、日本ビーチ文化振興協会主催のビーチイベントで、ジュニア体験のお手伝いを昨年に続き行いました。また、愛媛国体のセーリング競技に出場した神林佑佳選手(柏崎出身で柏崎翔洋卒業、京都大学4年生)の練習指導を行い8位入賞を目指しましたが、11位という結果に終わりました。来年の福井国体には、新潟県ふるさと選手として富澤慎選手も出場するので、国体セーリング競技で男女柏崎勢で男子優勝、女子入賞を目指します。



強くてやさしい人に



柏崎柔道連盟

会長 村田 幸多朗

講道館柔道の創始者、嘉納治五郎先生は幕末の生まれで体が弱かったことから開成学校(現東大)入学後、柔術の修行を志し多くの流派の技を合理的な技にまとめ上げ、僅か12歳の道場に講道館と名付け、そこを技だけでなく柔道を通じての人材育成の場ともしました。

それから4年後警視庁での試合で弟子達が他の流派に圧勝し、柔術は講道館柔道に統一されて行きました。

先生は「自他共榮」(自分や日本が、他の人々や国々と共に繁栄すること)を願い、その想いを託された多くの柔道家が海を渡り、現在国際柔道連盟に170ヶ国以上が加盟する礎となりました。

日本では少子化・スポーツの多様化もあり柔道人口は減り続けており、海外において日本を上まわる国も多くなっています。柏崎での市内大会も人数的にはさびしくなってきましたが、少数精鋭というかこのところ上越大会はもちろん、県大会等で活躍する選手が確実に育っており、今年度の秋の大会でも5年生の体重別で猪俣隼人君が夏の全国出場に続き優勝してくれました。

こういう活躍はとても嬉しいのですが、それにも増して低学年の時には先生や上級生に帯の結び方や礼儀作法を教えてもらい、徐々にやさしく投げもらったりしながら強くなる経験こそ重要だと思っています。強い人はやさしくなければいけないという、人としての基本を柔道で学んでほしいと願っています。そして、柔道で多くの友を得ることも大きな願いです。

柔道で強くてやさしい人になり、多くの友人を作ることを目指してみませんか。私もそうでしたが、運動の苦手な子も可能性があります。協調性も育まれます。柔道は世界に通じる日本の国技です。一度、道場を見学に来て下さい。



事務局だより

平成二十九年度も三分の一を終えました。四つある専門部会について、その活動の一紹介します。選手強化部は全国大会出場選手の激励会を終え、今は本年度活躍した選手の表彰。さらには強化費補助の配分作業の準備をしています。普及振興部は体協指定のスポーツ会の実施種目を見直し来年度から実施の方向であります。財務部は賛助会費のお願い訪問を終えたところです。ご協力いただいた企業、競技団体個々の方に心よりお礼申し上げます。広報部は機関誌「柏崎体育」の原稿集めに苦労しながらも確実に発行しています。法人として二年目との年に四苦八苦しながら協会の事業運営を支えている事務局です。後退を許されない状況でありますが、体協の活動が柏崎のスポーツの発展とスポーツマンシップ、そしてそれぞれの人生に生きられる一助になれば...と思います。まだまだたくさん課題をかかえていますので、皆様のご教導とご支援をお願い申し上げます。おかげで、体協の活動が柏崎のスポーツの発展とスポーツマンシップ、そしてそれぞれの人生に生きられる一助になれば...と思います。まだまだたくさん課題をかかえていますので、皆様のご教導とご支援をお願い申し上げます。おかげで、体協の活動が柏崎のスポーツの発展とスポーツが昨年九月四日に御逝去された広川俊男氏(参り十万円の御寄付をいただきました。事業費と)